



残りの日々を

前号を書いてからずいぶん時間がたった。その間、君たちにはいろいろな変化があったことだろう（残念ながら？私の方にはまったくといっていいほど変化はないのだが…笑）。

センター試験があり、センターの分析があり、迷わず出願した人もいれば、迷いに迷った人もいるだろう。その過程で何かを諦めなければならなかった人、新しい目標を見つけた人もいたに違いない。そして、私立大学の入試、国公立第一段階選抜の発表、私立の入試、私立の発表、私立の入試、私立の発表…と続いて、国公立大学の前期試験…。日比谷での生活の一つの集大成が、この一ヶ月の中につまっていたのである。いったい君たちは、この一ヶ月をどのように過ごし、そして、私が見ていないところでどのように成長したのだろうか？

*

二月になってからも、結構学校に来ている人たちは多くて、添削の合間の昼休みや放課後に35Rの教室で雑談をするのは楽しかった。下校後に教室をのぞいてみると、黒板には数学や化学の問題を解いた跡が残っていたり、意味不明な落書きが書きなぐってあったりして、「がんばっているんだな」とか「こりゃ、精神的に追い詰められてきたな」とか思ったりしたものである。さすがに早・慶の入試時期ともなると顔を合わせるメンバーも少なくなってきたが、それでも最後まで添削指導を受けたり、赤本に取り組んだりしている姿をみるにつけ、「あの35Rの諸君もやっぱり日比谷生だったのだ（「日比谷生なりけり」詠嘆＝気づいた感動！）」と、この3年間を振り返りながら、ただただ君たちの成果を祈る思いであった。

*

最初に合格報告をしてくれたのは●●さん。4勝3敗で勝ち越して、自分の志望していた道を切り拓いたとの報告は、最初であっただけにうれしかったし、正直ホッとした感じである。その後、少しずつ早・慶・上智をはじめとして、特待生として合格したといった報告も届くようになり、それぞれがしっかりと進路を決めている様子が徐々に伝わってくるようになった。一方、残念な結果が続いている人もいて、いろいろ話す機会もあったのだが、こればかりは自分でその結果を受け止めるしかないわけだから、その結果に対して自分はどう対処するつもりなのか、経済的な問題なども視野に、保護者の方も交えてじっくり考えるように伝えてきた。

今、前期の感触があまりよくなかったと感じているとしたら、後期に向けて全力を傾注することが第一の課題となるはずだ。後期までヤル気を維持するのは大変だが、だからこそやる気のある日比谷生には大きなチャンスとなるのである。余計なことを考える前に、まずは強い気持ちを持って努力を継続することである。

*

今日は私立の結果などを記入してもらおうが、この段階でとりあえず自分の受験は終わったという人もいるだろう。その解放感の格別さはよく分かるのだが、上に書いたように、これからさらに後期にチャレンジする人もいる。たとえ少数派であったとしても、そういう人たちのことを「第一に」考えてほしい。卒業式が終わっても、まだ受験が終わっていない友だちのことを、どうか最後まで意識してほしい。